

(資料1) 令和4年度 磐田市立青城小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
自分の考え(知)を表現する子	考えを深める授業の充実 ・課題を自分ごとにし、考えを導き出す発問の工夫 ・ICT機器の活用を含む対話活動の工夫	子どもたちは、進んで考えたり、友達と話し合ったりして、自分の考えを深めることができたか。	A	・校内研修のテーマを「主体的に学ぶ子の育成」として授業改善に取り組んだ。特に「思考をまとめる様々な方法」について重点をおいて研究を進めた結果、子どもたちに、ノートやワークシート、学習用端末を用いて、自分の考えを主体的にまとめる力が身に付いた。今後の課題としては、学習用端末をどこの場面で活用することがより効果的になるかを研究していく必要がある。 ・授業の時間だけでなく、朝や帰りの会での発表の場、対話タイム、始業式終業式でのめあてや振り返りの発表等、子どもたちが表現する場を設け、指導を行った。自分の言葉で表現する力が伸びている。さらに豊かな表現ができるよう高めていきたい。	・学習用端末とノートの併用は大変かもしれないが、それぞれのよさを生かして、先生方が試行錯誤しながら進められている。 ・学習用端末の活用方法を研究して、様々なことに役立ててほしい。 ・上手に学習用端末を使って授業をしている。書くことも上手に取り入れてほしい。 ・予定帳も端末で確認となったが、ノートに書くことも大切にしてほしい。 ・子どもたちが自分の言葉で表現する機会をこれからも多く与えてほしい。 ・学習用端末を使って知りたいことや疑問に思ったことを自ら調べられていてよい。 ・アイパッドでは、タイピング能力が上がらない。キーボードに触れる機会を増やしてほしい。 ・個人情報漏洩の危険性など、情報リテラシーに関する授業が必要。 ・家庭での利用状況が分からない。宿題も何をやっているか見えにくくなった。高学年になると画面を見せたがらない。子どもたちがやっていることを知る手が立てがあるとよい。 ・以前よりも対話が活発に行われている。自分の意見を言える子が多い。 ・自分の意見を自発的に発信できる子が育っていくとよい。 ・行事等を参観する機会がなく、子どもたちの様子があまり見えなかった。 ・授業内容を理解できたかの評価が「A」なのは、日頃の先生方の努力や御苦労の賜物だと思う。南中も「A」だった。青城地区の頑張りがよくわかる。 ・そろばん学習は大変有効だと思う。 ・先生方が小学校の時に読んで面白かった本の紹介をしてくださるとよい。
	学んだことを自分の力で表現する取組 ・授業のまとめや振り返りの時間の確保	子どもたちは、授業の内容が理解できたか。	A		
自分も相手も大切にしながら進んで行動できる子	心と心のキャッチボール ・「あいさつ運動」の推進 ・「ほめほめチャレンジ」の実施	子どもたちは、なりたい自分や今の目標を意識して生活することができたか。	A	・あいさつについては、自分に合った目標を立てて振り返ったり、6年生を中心に委員会活動で呼び掛けたりすることで意識を高めることができた。豊田南小や豊田南中とりもてあいさつ運動を行い、学府全体としてもあいさつを広げていこうという意識をもつことができた。 ・「ほめほめチャレンジ」は、子どもたちの自己肯定感、自己有用感等を高めるために効果的であった。継続していきたい。	・マスクなしになると表情豊かな顔が見られるようになり、今よりもっと明るい教室になると思う。 ・人と会うこと、挨拶することに慣れてくると、大きくてもっと良い挨拶ができるようになると思う。 ・下校中にすれ違くと元気よく挨拶をしてくれてうれしい。園児の手本となっている。挨拶運動は継続してほしい。 ・挨拶は高学年が率先してやると低学年もやる。 ・コロナ禍で、地域の方とのふれあいが少なく、挨拶ができない子もいる。 ・人数の多い学校だが、「つながり週間」のような取り組みがあると、子どもたちや保護者の安心につながる。担任と折り合いが悪く話づらい子もいると思うので、他の先生とも話ができる機会を作してほしい。 ・小学校教育は、人間形成の原点。良い取り組みを継続してほしい。
	自己を見つめ強みを伸ばす取組 ・「もくせいタイム」の充実 ・「つながり週間」の活用	子どもたちは、今の自分を振り返り、自己を見つめなおすことができたか。	B	・「もくせいタイム」は、毎週新しい目標を考えることが難しいことがあった。来年度は、隔週にして、学校・学年行事や時期ごとの生活テーマをより意識できる形にしていく。 ・「つながり週間」を設けたことで、担任が子ども一人一人と話す機会をもつことができた。次年度も子どもたちが安心して学べる学校をつくってきたい。	
最後まで心と体をきかす子	たくましい心と体づくり ・体育科授業や体育的行事を通してめあてをもたせ、振り返り、子どもの成長を促す	子どもたちは、めあてをもって運動し、最後までやりぬくことができたか。	A	・運動会や持久走大会、長なわ記録会などを通して、子どもたち自身が課題をもち、自主的に運動に取り組む姿が見られた。その中で、互いに協力し合い、尊重し合う集団としての高まりが見られた。 ・「健康・安全の日」をきっかけとし、日々の生活の中で、健康への意識を高めた。月に1回、保健委員会が「健康・安全の日」に行っている全校放送を通して、保健目標について子どもたちが学ぶことができた。また、学期に一度、学府共通で「こころの天気」に取り組んだ。こころの様子を絵で自由に表現することで、自分自身に向き合うことができた。	・たくましい心と体、生きる力を身に付けてほしい。 ・体力的なたくましさを身に付けてほしい。持久走をぜひ継続してほしい。 ・持久走は校内での開催であったが、安心して見ていられた。今年の方法でよい。 ・持久走、なわとび、器械体操などで体力をつけさせてほしい。 ・地域の方に大切に育てられている。心のたくましさをもっと必要。 ・レジリエンス教育は取り上げられないのか。 ・「こころの天気」は、色を塗ると心の様子が分かると思う。取り組みが素敵だと思う。自分の心の様子を絵や色で表すことは、低学年でも取り組みやすいと思う。親御さんも学習する機会があるとよい。
	健康管理の意識向上 ・「健康・安全の日」を活用した呼び掛け	子どもたちは、自分の心と体に関心をもち、健康に生活できたか。	A		
学信校頼づくれる子	保護者は、学校で目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っているか。		A	・各種便りやホームページなどで学校の良さや子どもの頑張りを発信してきたことで、保護者の86%から高い評価をいただいた。来年度も継続していきたい。 ・参観会や学校公開日を通して、子どもたちが真剣に授業に取り組む姿を見ていただくことができた。また、普段から担任が保護者と本読みカードや連絡帳、電話等で情報を共有することで、子ども理解が進み効果的な指導や支援ができた。	・HPで学校の様子が分かりやすい。先生方が子どもの声をよく聞いて笑顔で対応している姿が印象的だった。 ・保護者がボランティア募集にも協力的。 ・来年度は、学校行事や参観会で子どもたちの様子を見ることができるとを願っている。 ・東門から事務室が見えない。防犯カメラを取りつけることはできないか。犯罪の抑止力にもなる。案内板も分かりやすくしてほしい。初めて来た人は分かりづらい。 ・コロナ禍の中、行事を中止することなくやっていただいで感謝している。 ・良い意味で田舎。地域の方に大切に守られている。まじめな子が多い。だからこそのたくましさをもう少し育んでほしい。
	先生は、子どものことを理解して、指導にあたっているか。		A		

学校関係者評価を受けてのまとめ

- <知> ・学習用端末の効果的な活用方法を継続して探っていく。 ・ノートなどに書くことと端末を使ってまとめることとのバランスを考えていく。書くことの指導にも力を入れていく。 ・学習用端末の活用について、保護者にもっと公開していく。
 <徳> ・マスクをつけなくなった状況での挨拶運動を児童の実態を見ながら検討していく。 ・「あいさつ運動」「ほめほめチャレンジ」「もくせいタイム」「つながり週間」について、より効果が上がるように実践を積み重ねていく。
 <体> ・たくましさを育てることを強く意識していく。場の設定や内容について検討を重ねていく。 ・レジリエンス教育や「こころの天気」について、保護者へ実践や情報を公開していく。
 <信頼> ・学校を地域に開き、子どもたちの様子を見ていただく機会を増やす。 ・環境整備ボランティアや学習支援などを、保護者や地域の方に募集していく。